ISSN 0287-976X

Lib.

京都産業大学図書館報

v.33, no.2 (Sep.25 2006)

特集　原作を読もう！

映画・ドラマになった作品

＜海外の図書館紹介＞　6－8

＜就職活動支援ガイダンスについて＞　8

＜情報の探し方＞　9

＜Lib. なび＞　10－11

図書
雑誌
映画
音楽

＜教員文庫寄贈一覧＞　12

＜Information＞

＜自著を語る＞

33.『皇位継承のあり方 「女性・母系天皇」は可能か』　所 功

34.『ソフトウェア技術者の キャリア・ディベロップメント 成長プロセスの学習と行動』　三輪 卓己

35.『人間であること』　川村 覚昭

36.『英語教師のための 「学習ストラテジー」ハンドブック』　大和 隆介

表紙イラスト：安藤 京平（経済学部 3 年次生）

特　集

原作を読もう！　映画・ドラマになった作品

この秋も話題の映画やドラマが目白押しですが，今回の特集ではみなさんに是非おすすめしたい映画・ドラマの原作をご紹介します。「まずは，原作を読んでから･･･」という方も大勢おられますが，先に映像化された作品を見て「がっかり」した方，「感動！」した方は，これを機会に思い入れのある映画やドラマの原作を読んで自分なりのイメージをふくらませてみませんか？

「野ブタ。をプロデュース」の著者　白岩 玄　さん　来たる！！

白岩　玄さん

本学図書館が主催する「図書館書評大賞」の実施に先立ち，6 月 21 日（水）図書館ホールにて『野ブタ。をプロデュース』で第 41 回文藝賞を受賞された作家・白岩玄さんの講演会を行いました。当日は多くの聴衆を前に，書評大賞へ応募するにあたり“どのように文章を書くか”といったお話から，イギリス留学時のこと，デビュー作を執筆したいきさつや，ドラマ化されるまでの経緯などを交えてお話しくださいました。

今回特集のテーマである「原作を読もう！」にちなみ，原作者としての立場からお話を伺いました。

昔から「やんちゃでかくれんぼの大好きないたずらっ子」だったという白岩さん。当日のインタビューの様子をお伝えします。

◆◇◆

Q1: 文章を書く上で気をつけていることがあれば教えてください。

（白岩）書くときは，いつもより少し上に目線を置いて物事を見るようにしています。普段使わない言葉は使いません。一番の読者は家族だと思っているので，姉たちが読めるものを書くよう心がけていますね。今でも頼まれた原稿はまず姉に目を通してもらうんです。女の人の持つ「なんか違う」という直感はすごいですよね。その感覚を信頼しているんです。（笑）

Q2:「作家」になられたあと，ご自身の周りで「変わったな」と感じることはありますか？

（白岩）賞を取っても家族は特に変わりありませんでしたね。友人たちも以前と変わらず。強いて「変わったこと」といえば，出版社の方や今日のインタビュアーの皆さんのように，今までの自分だったら関わりのない人たちとも知り合えたことですかね。

Q3:ドラマ化されたものは，原作とは設定がだいぶ異なっていましたが，ドラマを見た感想は？

（白岩）広く，色々な世代の人に見てもらうためにあえて映画ではなくドラマ化を望みました。それと実は初めから制作側には「原作とは違うものを作ってください」とお願いしていました。というのも，ものを作る上で製作者が対象を愛することで，“いいもの”ができると考えているので，脚本家や監督が好きな「野ブタ。」を作ってほしかったんです。あと，どうなっていくのかを知らずに（テレビで）見てみたいとも思いましたね。

Q4:京都を舞台にした作品を書く予定はありますか？また，現在も京都にお住まいですが，京都の好きなところがあればお教えください。

（白岩）いつか必ず書きたいです。
賀茂川のほとりでときどき見かけるサックス奏者を見ながら，ぼーっとするのも好きですね（笑）

◆◇◆

次ページの作品紹介では「原作の良さ」についても語っていただいていますので，併せてご覧ください。

ドラマ・映画化された日本語の作品

友情・青春 編

白岩さんの作品をはじめ，昨年映画化された作品・これから映画公開される作品など，本学所蔵のおすすめ作品をご紹介します。

『野ブタ。をプロデュース』
/ 白岩 玄　著
河出書房新社　2004.11

ドラマ「野ブタ。をプロデュース」
2005 年日本テレビ制作
（演）亀梨和也；山下智久

昨年ドラマ化され主題歌を含め大ヒットしたデビュー作。今回，白岩さんに「**ドラマしか見ていない方に，原作を読むことをすすめるとしたらどんな点がポイントになりますか？**」と伺ってみました。

（白岩） ドラマは大勢の人の手で作り上げられ，原作にアイディアが足されてよりエンターテイメント性が増していく反面，細かな心理描写など希薄になる部分もあります。その点原作は一人の人間が作った世界なので，登場人物たちにより色濃く人間性を感じることができるところでしょうか。

『夜のピクニック』
/ 恩田 陸　著
新潮社　2006.9（新潮文庫）
映画「夜のピクニック」
2006 年 9 月 30 日より公開
（監）長澤雅彦
（演）多部未華子；石田卓也

夜を徹して 80 キロを歩く，一年に一度の伝統行事「歩行祭」。貴子はこの歩行祭で，たった一人だけの秘密の賭けをしようとしていた…。恋愛に友情，そして秘密の賭け。ただひたすら歩きながら，友人と語り合い，自分自身をみつめる生徒たちの様子は，自分が学生だったころに過ごした，いつもとは違う特別な時間を，懐かしさと切なさとともに甦らせてくれます。新潮社からは，このお話の前日談が収録されている短編集『**図書室の海**』もでていますので，こちらもあわせて読んでみてくださいね。

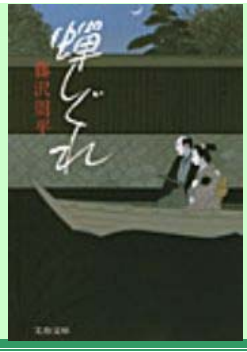
『春の雪』/ 三島 由紀夫 著
改版　新潮社　2002.10
(新潮文庫み-3-2 豊饒の海第 1 巻)

映画「春の雪」2005 年制作
（監）行定勲
（演）妻夫木聡；竹内結子

原作は輪廻転生を題材にした 4 部作。主人公の清顕が転生していく物語で，その第 1 巻目がこの作品。絢爛たる文章で綴られる風景・心理描写の素晴らしさ，物語の随所に隠されている伏線は，映画を観た後に本を手にした読者にも「原作には敵わない！」と言わしめ，目を閉じればそこに様々な情景が浮かんでくるような，まさに文学の力を体感できる作品です。明治末期～大正にかけての貴族文化を舞台に描かれる儚い恋物語…美しいだけではない三島ワールド“言葉の海”にどっぷりと浸かってみませんか。

『蝉しぐれ』/ 藤沢 周平　著
文芸春秋　1992.2
（文春文庫 ふ-1-25）

映画「蝉しぐれ」2005 年制作
（監）黒土三男
（演）市川染五郎；木村佳乃



藤沢周平作品の中でも最高傑作とされている作品です。尊敬する父の突然の死，幼なじみのふくとの淡い恋，かけがえの無い友との友情や秘剣の伝授を交え主人公文四郎が成長していく姿を描いています。06 年 12 月公開，木村拓哉主演の映画「武士の一分」（原作『盲目剣研（こだま）返し※』）など次々と映像化される藤沢作品は，時代小説ながら今の私たちが忘れがちな日本人の誇りや信念，慎ましく生きることの大切さを教えてくれるでしょう。

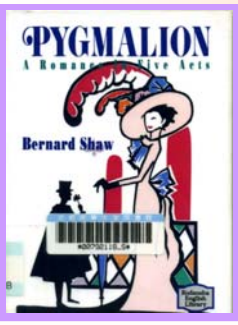
※ 短編集『**隠し剣秋風抄**』（文春文庫）に収録

映画化された外国語の作品

京都産業大学で学べる外国語編

日本語の作品に続いて，ここでは各言語に詳しい先生方からご推薦いただいた外国語の作品をご紹介します。この機会にぜひ手にとってみてください。

英米語：外国語学部　鈴木 重信　先生



1964 年　米　制作
映画「マイ・フェア・レディ」
（1964 年度アカデミー賞
作品賞，他 8 部門受賞）
原作
『Pygmalion』
／Bernard Shaw　著

英語を楽しく勉強してもらう為に映画を観ることをいつも学生諸君に勧めている。ただ英米文学の作品となると映画化されているものは枚挙にいとまがないので，一作品だけを推薦するのはとても難しい。とりあえず今回は My Fair Lady を紹介しておきたい。この作品は G.B.Shaw の Pygmalion をミュージカルに仕立てたもので，主役のオードリー・ヘップバーンの魅力とあいまって非常に楽しい映画に仕上がっている。興味を覚えた人は原作の方にも挑戦してもらいたい。

フランス語：文化学部　織田 年和　先生

1991 年　仏　制作
映画 「ボヴァリー夫人」
原作
『Madame Bovary』
／Gustave Flaubert　著

小説を読むことは，ストーリーを理解するとともに，ストーリーの表現の仕方を味わうことでもあります。「ボヴァリー夫人」がかっこうの見本です。エンマを演じたイザベル・ユペールも美しいですが，夢と現実の，超えられそうで超えられない壁に苦しむエンマ・ボヴァリーを描くフローベールの文章の美しさは比類がない。原文が読めなくても，伊吹訳，生島訳の２つの名訳を読み比べるのも楽しいです。

ドイツ語：文化学部　吉田 眸　先生

1962 年　仏・西独・伊　制作
映画 「審判」
原作
『Der Prozess』
／Franz Kafka　著

カフカの『審判』は，オーソン・ウェルズによって大胆に「映画化」されており，これは「映画化」というものが成功している希有な例である。原作も実に深いし，映画も素晴らしい。罪もない一介のサラリーマンが突然逮捕されやがて処刑されるという，一見きわめて不条理な話だが，孤独な状況の細かいリアルな描写には誰もが身につまされる。

中国語：外国語学部　関 光世　先生

1982年　中　制作
映画「人到中年」
原作
『人　到　中　年』
／谌 容　著

映画「人到中年」の原作は，女性作家谌容が 1980 年に発表した同名の小説です。病に倒れた女医の回想という形で彼女の妻・母・友・医者としての苦悩を描き，知識人をとりまく問題を指摘しています。６万字程度の中編小説なので気軽に読めますが，特に親友が病床の友に宛てて書いた別れの手紙は大変美しく，是非声を出して読んでみて欲しいものです。

ロシア語：外国語学部　柴田 信子　先生

1996 年カザフスタン・露制作
映画「コーカサスの虜」
原作
『Кавказский пленник』
／Маканин В. 著

この本は，すでにプーシュキン，レールモントフによって 19 世紀前半に書かれている。最新のものは，マカーニンのものであり，2004 年にモスクワで出版された。長年にわたりロシアの解決困難な問題を，映画では今日の若者の視野で疑問を投げかけており，タルコフスキーの「僕の村は戦場であった」に負けない印象を残す作品である。

スペイン語：文化学部　井尻 香代子　先生

2003年　英・米　制作
映画「モーターサイクル・ダイアリーズ」
原作『DIARIOS DE MOTOCICLETA.
Notas de un viaje por América Latina』
／Ernesto Che Guevara 著

映画「モーターサイクル・ダイアリーズ」の原作です。映画にはない小さなエピソードや 23 歳のチェの希望と不安を語る真摯なつぶやきが胸に迫ります。南から北へ広大なラテンアメリカを走り抜けるプロセスですが，2，3 ページの小さな章でつづられていくので読みやすいです。特にインカ文明との出会いの数章はお勧め。彼自身が撮った写真も魅力です。手に取ってみて下さい。

インドネシア語：外国語学部　安田 和彦　先生

2002 年インドネシア　制作
映画「Ca-Bau-Kan」
原作
『Ca-Bau-Kan:
hanya sebuah dosa』
／Remy Sylado 著

本書は，オランダ領東インド，日本占領時代から，独立宣言と独立戦争時代のインドネシアを舞台に，インドネシア人女性と華人男性，二人の愛とアイデンティティの確立を描く長編小説である。また，インドネシア独立後，長く語られることがなかった独立に関わった華人の役割を，改革の時代を迎えたインドネシア社会に問う意欲的な作品でもある。

イタリア語：外国語学部　小林 満　先生

1999年　米・伊　制作
映画
「海の上のピアニスト」
原作
『Novecento』
／Alessandro Baricco 著

トルナトーレ監督が 1999 年に映画化した（邦題「海の上のピアニスト」），ベストセラー作家バリッコの代表作です。舞台は今からおよそ百年前の大型客船。大西洋を往復するこの船で，当時多くのイタリア人がアメリカに移民していました。この船の中で生まれ，一生陸に上がることのなかった天才ピアニストを描いた，とてもおしゃれでやさしい小説です。

今回の特集はいかがでしたでしょうか。映画がもつ映像の美しさと，原作がもつ言葉の美しさ。どちらにもそれぞれの良さがあります。どちらか，だけではもったいない！これからの秋の夜長，せっかくなので映画と原作，両方楽しんでみてはいかがですか？

特集の中で紹介している原作は全て図書館で所蔵しています。書名を入力すれば検索できますので，興味を持たれた方は蔵書検索 EZ-Cat で探してみてくださいね。

海外の図書館紹介

イリノイ大学図書館の今と昔

Main Library
University of Illinois at Urbana-Champaign
（アメリカ合衆国）

上野　継義

(Main Library)

イリノイ大学アーバナ・シャンペーン校は，シカゴから南へ車で3時間くらい，中西部に広がる見渡す限りのトウモロコシ畑のただ中にあります。これといった娯楽施設があるわけではなく，世俗的な楽しみの少ない街です。それこそ勉強する以外に何もすることがないので，学生たちと話していると，決まって“退屈”“うんざり”といった言葉を耳にします。私はイリノイ大学に学ぶのは今回が二度目ですが，初めてここへ来たときには，多くの学生と同じく，こんな土田舎で生活するのかと思っただけで，気持ちが沈んでしまいました。しかし，この大学の図書館の書庫に入って考えは一変しました。資料の豊かさに研究心をおおいに刺激されたのです。大学の図書館は，存在それ自体で，人の考えを変えるような機関であるべきだと思います。以下では，昔の留学経験と比較するかたちで，イリノイ大図書館の今と昔について綴ってみたいと思います。

イリノイ大学の図書館は 1867 年に創設されました。図書館発展のきっかけは，1912 年に時の学長が，ドイツの一流の学術機関に退けを取らないリサーチ・ライブラリーを創り上げようとの夢を抱き，その実現に向けて邁進したことです。少なくとも 100 万冊の蔵書を速やかに収集するとの方針を固め，新図書館の建設にも着手しました。現在のメイン・ライブラリー（中央図書館）がその時のもので，1926 年にここへ移転し，目標の 100 万冊は 1935 年に達成されます。1910 年代のアメリカは革新主義の時代といって，大学が大きな影響力を持つようになった時代です。とくにこの時代に登場したさまざまな専門職業に「科学」としてのお墨付きを与える機関として自己を位置づけることによって，大学は発展しました。図書館の充実はこのような動きと連動していたといってよいでしょう。隣州のウィスコンシン大学でも，経済学者ジョン・R．コモンズらを中心に研究拠点づくりが進んでおり，膨大な量の資料と書籍が収集され，重複した書物はイリノイ大などに売却して蔵書の欠を補っていましたから，おそらくはイリノイ大の方でも同様のことがなされていたはずです。また，シカゴ大学の総長が提唱した「5 つの部門を備える大学」が増えてきたのもこの時代の特徴です。すなわち，(1) 学部および大学院，(2) 図書館・研究所・ミュージアム，(3) 公開講座，(4) 大学出版局，(5) 他機関との提携がそれです。このような時代の動きに呼応して，トウモロコシ畑の中から巨大な図書館と世界有数の研究教育機関が姿を現しました。

今日のイリノイ大図書館は，中央図書館を中心に，各学部および研究所の図書館のほか，レファレンス・歴史調査室・新聞の専門図書室などおよそ 50 の図書館で構成されています。学生数は 4 万人を数え，キャンパスを行き交う人の多さに圧倒されますが，上手に図書館利用を分散し，中央図書館は主として大学院生と教員を対象にしているため，ここへ 4 万人が押し寄せるというようなことはありません。また今日では，学生寮や自宅からインターネットを通じて蔵書検索をするようになりましたし，主要なジャーナルや新聞，法制史関係の歴史文献はデジタル化されていますので，中央図書館の検索ルームも貸出窓口も混み合うことはありません。また，この大学は車椅子バスケットボール発祥の地であり，中央図書館の古い建物をところどころ改修して，車椅子でのアクセスに配慮しています。カタログのオン

ライン化は1978年に実現しました。現在の蔵書数は900 万冊を超え，全米で第三番目の規模を誇りますが，今日多くの図書館がかかえている収蔵スペースの問題にイリノイ大も直面しており，比較的利用頻度の低い書籍をオーク通りの別書庫に移しています。

図書館の評価は，しかし，規模の大きさだけで決まるわけではありません。とくに1998年夏からイリノイ大学ほか44の図書館が，オンラインによる蔵書検索を共通化して相互貸出のネットワークを築きましたので，規模の利益を享受するだけなら必ずしもイリノイ大学にいなくてもよいわけです。サーヴィスの質がますます図書館および大学の地位と評価を左右する時代になったといってよいでしょう。たとえば，図書の借り出し延長手続きがパソコン画面で簡単にできるのは，かなり前からそうですが，ほんとうに便利です。私はいまイリノイ工科大学など 7 つの大学および研究機関から研究資料を借り出していますが，いつでもオンラインで延長手続きができます。また，これまでにニューヨーク州立図書館はじめ5つの図書館から書籍を送ってもらい，あるいは資料の全ページ複写（こちらで求めたわけではないのですが）をしていただきました。レファレンス・サーヴィスのレスポンスの速さにも特筆すべきものがあります。学外に論文の複写を依頼した場合，最近では資料をスキャナーで読みとり pdf 書類に変換してメールに添付する機関が増えてきました。これだと郵送料がかからない上に，紙資源の節約にもなります。

情報技術の発展は，図書館サーヴィスの量と質に革命的な変化をもたらすとともに，学生の勉学スタイルやキャンパスの風景をも変えました。かつてはキャンパス内にコピー屋さんがたくさん店を構えていたものですが，なくなってしまいました。周知のように，アメリカの大学生は毎週大量の読書課題をこなしますが，そのための資料は，かつてはコピー業者が複写して用意したものでした。ところがいまでは図書館のウェッブサイトからリーディングスを学生たちが自分でダウンロードするかたちに変わりました。ただこれを実現するためには，著作権法をクリアする必要がありますが，この面でもアメリカは一歩先を行っているように思います。アメリカ人は，よい意味でも悪い意味でも，目的追求型の人間ですが，少なくとも図書館の運営についてはその国民性が功を奏し，格段に優れたサーヴィス・システムを築き上げつつあります。イリノイ大図書館は教員と大学院生の研究を底辺から支えることによって大学の評価と魅力を高め，それによって世界中から学生を集めています。

(Grainger Engineering Library)

わたしが以前イリノイ大に学んだ頃は，IT 革命の最初期段階にあたり，旧式の情報機器と新しいそれとが併存している状況でした。身近な例をあげるなら，筆記具としてのタイプライターはすでに古く，ワープロからパソコンへと移行する最終段階にありました。まだ電子メールは普及していませんでしたので（当時日本ではニフティが「パソコン通信」なるサーヴィスを提供していました），大学との交渉はすべて手紙で行い，タイプライターで打つのが慣例となっていました。しかし同時に，図書館では，蔵書検索はもとより，書籍の借り出し，予約，延長手続き，さらには Interlibrary Loan といって他大学から書籍を借りることまで，すべてパソコン画面で行うことができました。画面は今日のように美しくフレンドリーなものではなく，単なる文字の羅列に過ぎませんでしたが，アメリカの大学は進んでいるなあと感じ入ったものです。同時期に学んでいた日本人研究者のひとりは，自宅から電話回線を通じて蔵書検索ができることにいたく感動し，日本へ帰ったらできなくなると言って，検索結果をたくさん印刷して貯め込んでいました。今日の目で見れば噴飯ものですよね。

ただ私にも他者を笑えない経験があります。当時イリノイ大の読書室にはタイプライターがずらりと並んでいましたが，私が訪ねてから数週間後に撤去されました。廃棄処分になったのか，博物館へ寄贈されたのかは知るよしもありませんが，図書館側のこの動きを加速させたのは，私の行動にあったと思います。タイプライターは，ほんのしばらく前までは誰もが使っていたのでしょうが，当時は私だけでしたから。旧時代の遺物をこいつはまだ使っているのか，と周囲は半ばあざけりの眼で眺めていたのかも知れませんが，たぶん最大の問題は音です。当時の学生たちは，タイプライターから遠ざかっていた世代に属し，キーを“たたく”音が騒音として聞こえ，図書館員に苦情を申し立てたに違いありません。なにはともあれ，IT 革命は社会のあらゆる部面に大きな変化をもたらしていますが，人びとの音に対す

る感性をも根本的に作り替えました。のちの歴史家は，IT 革命を振り返り，次のように記すことでしょう。ほぼ 1990 年代を境にして，人類は生まれ変わり，従来とは異なる音に快楽を覚えるようになった，と。

最後に一言，学生の民族構成について付け加えておきたいと思います。かつては全米どこの大学へ行っても日本人留学生がたくさんいて，せっかくアメリカへ来たのに日本語ばかり話しているといった嘆きをよく耳にしたものです。ところが日本人の姿がほとんど見当たりません。私の行動半径がそうさせているのかも知れませんが，たまたまこちらで出会った日本人研究者も同様の感想を口にしており，どうもこれは私ひとりの思い過ごしではなさそうです。代わりに目につくのは，韓国，中国，タイといった国々からの留学生たちです。社会や国の活力の差がこの辺に現れているのではないかと気懸かりです。

アメリカは多くの問題を抱えていますが，学問でもビジネスでも先進的な取り組みがなされている社会であり，学ぶべきことは少なくありません。短期留学の機会などを積極的に活用してアメリカの大学を一度訪ねてみてはどうでしょうか。

参考文献：

Robert H. Wiebe, The Search for Order, 1877-1920 (New York: Hill and Wang, 1967), 121.

リチャード・ホーフスタッター『改革の時代：農民神話からニューディールへ』清水知久ほか訳（みすず書房，1967），140-41.

Harold L. Miller, "The American Bureau of Industrial Research and the Origins of the 'Wisconsin School' of Labor History," *Labor History* 25 (Spring 1984): 165-88.

Walton S. Bittner and Harvey F. Mallory, *University Teaching by Mail: A Survey of Correspondence Instruction Conducted by American Universities* (New York: Macmillan Co., 1933), 18.

（うえの　つぐよし　経営学部教員）

就職活動支援ガイダンスについて

図書館では，昨年 11 月から今年 1 月にかけて計 7 回，就職支援の一環として「図書館による How To 企業情報検索」をテーマに就活力セミナーを初めて実施し，情報の効率的な収集方法について紹介しました。しかし，実施初年度で学生の皆さんのニーズを掴めなかったためか，残念ながら参加者数は多くありませんでした。

内容は，図書・雑誌・新聞といった一般的情報源と企業情報の特徴，そして新聞記事情報を得るためのツールとして企業に関する記事が豊富な「日経テレコン 21」の使い方についての説明が中心でした。これらの説明はすべて資料を使ったもので，具体的に検索してみるといった方法でなかったため，実践的でないとして敬遠されてしまったのではないかと考えています。

なお就活力セミナーの最後には，進路センターの就職アドバイザーによる体験レポートを発表してもらいました。幸か不幸か（？）参加者数が少なかったため，就職活動についてより具体的な情報交換ができたようです。

今年度は前回の実施内容を見直し，検索実習を含め，より実践的な内容にしたいと考えています。また，「日経テレコン 21」以外の企業情報を調べることのできるツールの使い方も紹介したいと思います。

具体的な内容は検討中ですが，ガイダンスの実施については図書館 HP，POST や図書館内・学内掲示板などでお知らせしますので，就職活動を行っている皆さんだけでなく，企業情報の調べ方について知りたいという皆さんの参加をお待ちしています。

◆◇◆

いまはインターネットを利用して様々な情報が得られるようになっています。しかしそれらが本当に正しい情報なのかは保証されていません。図書館では，図書，雑誌・新聞記事，各種データベースから，企業情報も含めより正確な情報を得ることができる資料を提供しています。

こうした資料の使い方や調べもの，知りたいことなどありましたら，レファレンスカウンターで相談してください。

また，図書館が開催する各種ガイダンス以外にも，申し込みがあれば個別に説明を行います。レファレンスカウンターに遠慮なく声をかけてください。

情報の探し方

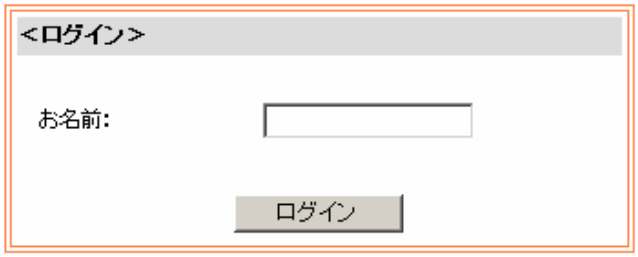
このコーナーでは，現在導入しているデータベースの検索ツール等を紹介します。

契約データベース紹介

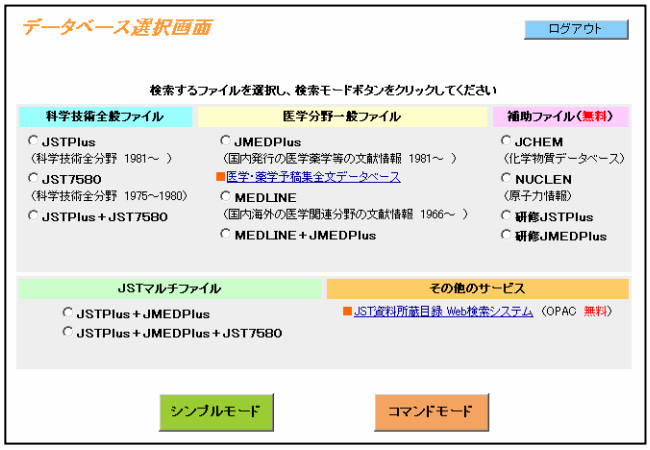
JDream II

前号で紹介した JDreamII（ジェイドリーム・ツー）の詳しい使い方を紹介します。JDreamII は，科学技術，医学に関する学術論文や解説的記事などの文献情報を幅広く検索できます。収録記事は 3,800 万件で，日本最大級の科学技術文献情報データベースであり，世界 50 数カ国の情報を含んでいます。

利用するには，ログイン画面の右下「お名前」欄に各自の氏名か cc 環境ユーザ ID を入れて「ログイン」ボタンをクリックしてください。

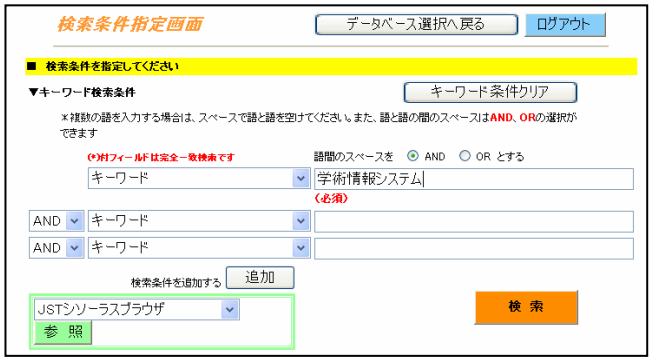


すると「データベース選択画面」が表示されますので，検索するファイルを選択して「シンプルモード」ボタンをクリックします。



「シンプルモード」とは標題，著者名など検索したい項目ごとにキーワードを入れて検索する方法，「コマンドモード」とはJDreamIIで定めているコマンドを入れて検索する方法です。よほど複雑な検索をする場合以外は「シンプルモード」で大丈夫です。

次の検索条件指定画面で，キーワードや著者名，資料名（雑誌名）などから検索します。ここではキーワードとして「学術情報システム」と入れてみました。



「検索」ボタンをクリックすると，ヒット件数とタイトル一覧が表示されます。その中からより詳しく確認したい文献のタイトル部分をクリックします。

複数タイトルを一度に表示やダウンロードをしたいときはタイトル一覧の番号前のチェックボックスをクリックしてチェックを入れ，「回答表示」や「ダウンロード」ボタンをクリックします。

終了する場合は「ログアウト」ボタンをクリックします。利用状況を表示しない旨のメッセージが出ますが OK して大丈夫です。

JDreamII は，学内情報処理教室，研究室等のパソコンのほか，cc 環境のユーザ ID，パスワードを使って，自宅等の学外からでも利用できます。

学外からは以下の URL にアクセスしてください。

https://ccsslvpn.kyoto-su.ac.jp/

図書

組織行動論

皆さんは、「組織」という言葉から何を想像しますか？組織はお父さんの会社の話だけと思っていませんか？

確かに、会社には総務や営業など、部や課、係があります。

しかし、組織は会社にしかないのでしょうか？答えは「ノー」です。学生のあなたも何かの組織の一員なのです。

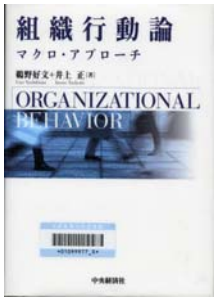
皆さんが想像しやすい大学内の組織といえば、クラブやサークルなどが挙げられます。なぜなら、みんな何気なく集っているように見えますが、主将やリーダーが何かを決めたり、指示したりされたりするからです。

本書では、このような組織の行動について分析・考察がなされています。少し難しく思うかもしれませんが、日常生活にも存在する「組織」についてですので、どなたでも読んでいただけると思います。

組織は、複数の人間がひとつの目的を達成しようとするために、しばしば問題が起きてしまいます。この問題解決や、どのように組織をつくればよいかが本書に著されています。最初は慣れないかもしれませんが、様々な角度から組織を分析しているので読んでいくうちにのめり込んでしまいますよ！

教務部職員
徳永　智史（とくなが　さとし）

『組織行動論：マクロ・アプローチ』
鵜野好文・井上正著　中央経済社



336.3-UNO ／３階

Lib.

神山人から

週刊東洋経済

世界には見えない壁が存在しています。

たとえば戦争。今も私たちの知らない世界のどこかで、かけがえのない命が失われていきます。しかし、私たちはそれを実感することができません。そこには空想に似た壁が存在し、実感するには壁を乗り越える必要があるからです。壁の乗り越え方は色々でしょう。政府規模の人道的な支援もそうでしょうし、募金もそうでしょう。積極的に事象へと関わっていくことで壁は薄く越えやすくなります。

前振りが長いようですが、政治、経済という壁は私たちにとって最も越えやすく、また、越えなければならない壁でしょう。どうあれ、私たちはこの世界に生き、生き続けたいと思っているからです。そのためには生きるための機構と流動的な時勢の変化を常に学び続けなければなりません。

『東洋経済』は数ある経済誌のひとつです。偶然、図書館で見つけたので（単純に「経済」に反応して）手に取ったのですが、はじめは訳のわからない単語や、用語の洪水でした。特に政治関連記事は難しかったので、同じものを書店で買って、家でじっくり読みました。

週刊誌の良いところは新聞や報道と違って「自分で考える時間」を与えてくれるところでしょうね。だって週刊ですから来週までは発刊されません。解らない言葉があれば明日調べればいいんです。

経済は難しいです。しかし、触れ合わない生活は今のところ難しいです。お付き合いするためには多少の壁を越えないと面白くないでしょう。

経済学部　三年次生
宮田　聖嗣（みやた　せいじ）

『週刊東洋経済』　東洋経済新報社

雑誌

330TAZ ： E T1 ／２階-雑誌

なびのオススメ！

映画

ニュー・シネマ・パラダイス

実家を出て一人暮らしをしているみなさん。あなたが故郷のお母さんや友達と最後に連絡をとったのはいつですか？

主人公トトは、なんと三〇年もの月日、故郷に帰らず、手紙すら書かなかったのです。もちろんメールなんてありません。しかし、それは何か確執があったからではありません。旅立つ時に、大好きだったアルフレードおじさんの強い言葉があったからなのです。

「絶対に帰ってくるな…自分のすることを愛せ」

トトはその言葉を忠実に守ります。母を捨て、恋人を捨て、アルフレードさえ捨てて、自分の仕事に打ち込みました。そうして、トトはとうとう映画監督という夢を叶え、故郷に知られるほど有名になっていました。

これは、実はアルフレードからの贈り物だったのですね。

トトは、三〇年経ってようやくプレゼントの封を開けることができました。でも、プレゼントの内容には他にもたくさんあるんですよ。

映画史上最も美しいと言われるこの映画のラストシーン。このシーンを観れば、あなたにもアルフレードの素敵なプレゼントがおすそわけされることでしょう。

法務研究科　三年次生
和田　大輔（わだ　だいすけ）

Tornatore, Giuseppe　監督
1989年伊仏合作映画（124分）

[VHS] 778.72-TOR　/　1階

音楽

Divertimenti K.136-138

今年はモーツァルトの生誕二五〇年にあたるので、至るところでモーツァルトの演奏会が開かれています。モーツァルトは三十五歳の若さで亡くなるまでに、生涯でオペラ、器楽曲、声楽曲、宗教曲など合わせ七〇〇曲もの作品を残した多作曲家です。経営学的に言えば、モーツァルトはマーケットインの発想で作曲をしていました。作曲を委嘱する貴族を念頭に「どうやったら顧客が喜んでくれるか」をいつも考え、顧客満足を重視していたのです。この正反対はバッハです。バッハは宗教を基盤に、芸術そのものを追求した作曲家です。この意味では、プロダクトアウトな発想だったと言えるでしょう。

モーツァルトの作品は、気軽に聴けるものが多く、音楽療法やヒーリングにも選ばれることが多いようです。この中から、今回はイタリア語で娯楽・気晴らしを意味するディベルティメントを紹介します。K.136-138のディベルティメントは弦楽器による爽やかメロディで、聴く人を幸せな気分にさせてくれます。食事やリラックスタイムのBGMにも最適です。たまにはディベルティメントを聴きながら友人と一緒にディナーと洒落こんでみませんか。

経営学部教員
大木　裕子（おおき　ゆうこ）

Divertimenti K.136, 137, 138 ;
Serenade No.13 K.525 "Eine Kleine nachtmusik"（約47分）

[CD] 764.32-MOZ　/　1階

教員文庫寄贈一覧

寄贈順（4/1～8/31）　敬称略

島　憲男　（外国語学部）
『新マイスター独和辞典』　大修館書店，2006

三輪　卓己　（経営学部）
『フラット型組織の人事制度』 中央経済社，2004
『入門人的資源管理』　中央経済社，2003
『ソフトウェア技術者のキャリア・ディベロップメント：成長プロセスの学習と行動』　中央経済社，2001

西川　信廣　（文化学部）
『習熟度別指導・小中一貫教育の理念と実践』ナカニシヤ出版，2006

三好　準之助　（外国語学部）
『概説アメリカ・スペイン語』　大学書林，2006

川村　覚昭　（文化学部）
『自律のための教育』　昭和堂，1991
『人間であること』　燈影舎，2006

大和　隆介　（外国語学部）
『言語学習と学習ストラテジー：自律学習に向けた応用言語学からのアプローチ』　リーベル出版，2005
『イスラームと民主主義』　成文堂，2000
『英語教師のための「学習ストラテジー」ハンドブック』　大修館書店，2006

岩本　誠吾　（法学部）
『講義国際法入門』　嵯峨野書院，2006
『海上武力紛争法サンレモ・マニュアル解説書』東信堂，1997
『武力紛争の国際法』 東信堂，2004
『二一世紀国際法の課題：安藤仁介先生古稀記念』有信堂高文社，2006

木村　雅昭　（法学部）
『The state in India：past and present』 Oxford University Press，2006

庄垣内　正弘（文化学部）
『ロシア所蔵ウイグル語文献の研究：ウイグル文字表記漢文とウイグル語仏典テキスト』 京都大学大学院文学研究科，2003
『ウイグル文 Dasakarmapathavadanamala の研究』松香堂，1998
『Словарь тангутского(Си Ся) языка：тангутско-русско-англо-китайский словарь』Faculty of Letters，Kyoto University，2006

森　哲郎（文化学部）
『禅と京都哲学』（京都哲学撰書 別巻） 燈影舎，2006

Information

秋学期の図書館利用教育

◆法学情報検索法（クラス単位）
法学部１年次生対象に選択科目「プレップセミナー」の授業の１コマで実施します。
主な内容は，法学文献・情報の探し方（入門編），法学関係データベースの検索実習です。

◆ゼミ対象文献探索ガイダンス（クラス単位）
春学期に引き続き実施，ゼミのテーマに合わせた文献探索法の説明とデータベース検索実習を行います。

◆就職支援ガイダンス（個人単位）
就職活動に役立つ「就活力セミナー」を進路センターと共催で実施。業界の動向や個別企業の情報を検索する方法をお教えします。
日程等は図書館 HP，POST，館内掲示でご案内します。

◆ データベース検索説明会（教員・院生対象）
EBSCOhost，LEXIS-NEXIS などの検索法を説明します。10 月 25 日，11 月 29 日，翌年 1 月 31 日の各水曜日午後 2 時から行います。
詳細は POST 等でご案内します。

（案内）ハート・ウォーミング・プログラム 映画上映会

『Lib.』との初の連動企画，特集「原作を読もう」に取上げられた作品を，10 月中旬から 12 月にかけて図書館ホール上映予定です。日程，タイトル等は図書館 HP，POST，学内掲示板，館内掲示でご確認ください。

（予告）「第２回図書館書評大賞」の選考・表彰

9 月 29 日（金）で応募を締め切ります。
選考･表彰に関する今後の日程は，次の通りです。
11 月 29 日（水）大賞・優秀賞・佳作発表
12 月 13 日（水）表彰式（図書館ホール）
大賞・優秀賞・佳作掲載『Lib.』増刊号発行

原稿を募集しています
内　容：『Lib.なび』コーナーの「図書」「雑誌」「映画」「音楽」のいずれか１つのジャンルについて。
字　数：17 字×28 行＝476 字
提出先：添付ファイルで下記アドレスまで。
（lib-pub@star.kyoto-su.ac.jp）

発　行　京都産業大学図書館
所在地　〒603-8555　京都市北区上賀茂本山
電　話　(075)705-1446